

ありがとうございます

11/9

あすなる道路道東営業所（今敏次所長）の皆さんが地域貢献活動として、駒ヶ丘公園多目的運動広場グラウンドの整地をしてくださいました。



活躍が期待されます

11/20



全道大会へ出場を決めた標茶中学校バスケットボール部と卓球部が、その報告に役場を訪れました。選手を代表してバスケットボール部の齋藤思奈さん（2年生）は「全員が一丸となり、悔いのないように頑張りたい」、卓球部の西内琳星さん（2年生）は「全員で協力して1つでも多く勝ちたい」と意気込みを語りました。

おめでとうございます

11/24

虹別在住の原田敦さんが日本酪農研究会「酪農経営コンクール」の最優秀賞である「黒澤賞」を受賞し、その報告に役場を訪れました。受賞に対し原田さんは「今回の受賞は家族をはじめ周囲の方のおかげ。皆さんに感謝したい」と話しました。



11/10

認知症予防講演会を開催しました

ふれあい交流センターで認知症予防講演会が開催され、東京都健康長寿医療センター研究所研究員の宇良千秋氏が、認知症の現状や認知症予防のための食事や運動などについて講演しました。認知症予防の取り組みが、認知症となっても生きがいや楽しみのある生活を維持することにつながるとの話に約150人の参加者は熱心に耳を傾けていました。



11/18

想いを込めて発表しました

第36回標茶町「少年の主張」大会がコンベンションホールういずで開かれました。出場した全小中学校の代表12人は自分の将来の夢や生活で気づいた課題などについて堂々と発表しました。結果は次のとおりです。なお、中学生の部で最優秀賞を受賞した庄野萌花さんは平成30年度釧路総合振興局地区大会の標茶町代表となります。

■小学生の部

- 最優秀賞 小島すばる（標茶小6年）
- 優秀賞 和田 夏妃（標茶小6年）
- 優秀賞 尾方 野恵（沼幌小6年）

■中学生の部

- 最優秀賞 庄野 萌花（中茶安別中2年）
- 優秀賞 齋藤 思奈（標茶中2年）
- 優秀賞 中鉢 龍斗（虹別中2年）

町内在住のカメラ愛好者の方へ

町内で行われたイベントや明るい話題など、何でも結構ですので、写真の投稿をお待ちしております。

役場企画財政課地域振興係
「投稿写真コーナー」

新しい展示施設の愛称

「ニタイ・ト」

に決まりました!!

広報しべちゃ9月号で標茶町博物館（仮称）の愛称を募集し、子どもから大人まで町内をはじめ全国各地から266点の応募がありました。応募された愛称案を標茶町郷土館運営審議会で検討した結果、町内2人の方から応募された愛称案の一部をつなげて「ニタイ・ト」に決定しました。アイヌ語で「ニタイ」は“森”、「ト」は“湖”となり「森と湖」を意味します。森と湖に囲まれた塘路にふさわしい愛称をいただきました。改めてご応募いただいた多くの皆さんに、お礼申し上げます。

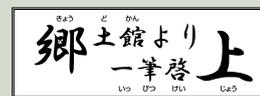
【愛称に採用された応募者の紹介】

- 川上 小島すばるさん「ニタイ（森）レラ（風）」
- 桜 鈴木 裕美さん「パラ（広い）・ト（湖）」



大川のほとり

—郷土館だより(第76号)—
☎487-2332



愛称応募では、どのぐらいの応募があるか不安でしたが、多くの愛称案をいただきました。本州からの応募も多く、観光地としての知名度を感じました。（坪）



↑標茶町博物館の外観。（白壁にこげ茶色のラインが格子状に入っており、旧ピルカトウロのおしゃれな外観を受け継いでいます）

標茶町博物館は、現在改修工事の終盤に差し掛かっています。昨年12月上旬の段階で外壁工事は全て完了しました。建物の内部も展示室を含めた全ての部屋が完成し、壁・天井の塗装・床シートの貼付けを待つのみです。建物の改修工事完了後、郷土館に展示していた資料を移動し、新館の展示室への設置を行うほか、新しい展示パネルの製作を行います。新館オープンは7月1日を予定しています。

なおオープンは、標茶最初の役場である「熊牛村外四力村戸長役場」の執務開始日である、明治18年7月1日に合わせています。



↑旧ピルカトウロのレストラン部分にある吹き抜け空間を利用し、デザイン性に富んだジオラマを設置します。2階床面の高さには設置される宙に浮いたようなジオラマは、新館の展示特色の一つです。ほかでは見られない珍しい仕掛けのジオラマとなります。

地元の人

不定期コラム

コレを読め!

第5回

釧根を取り上げた作品たち(小説編)

郷土館職員が、北海道や標茶が登場する「お勧めの本」を紹介します!

『神の子供たちはみな踊る』

著者 村上 春樹

～『のこされた手紙には
「もう二度とここに戻ってくるつもりはない」と書いてあった』～

今回紹介するのは、村上春樹氏が月刊新潮で掲載した「地震のあとで」(英題: after the quake) という副題が付けられた短編集。5編の短編作品と書き下ろし一編が集録されたもので、全てが1995年に起きた阪神・淡路大震災に何らかの関わりのある物語となっています。この中で今回取り上げるのは「釧路にUFOが降りる」という短編です。

阪神・淡路大震災の後、妻と離婚する事となった主人公「小村」は、同僚の頼みで「正体不明の箱」を釧路まで運んでほしいと言われます。1週間の休暇を取った小村は、居なくなってしまった妻の事を考えながら、釧路の地を訪れる…というお話。舞台は釧路ですが、文中では釧路近郊の温泉へ行く提案を持ち掛けられます。この温泉、著者の村上春樹氏の頭にあったのは、阿寒の事か川湯の事が、はたまた標茶の事だったのか?

標茶が直接出てくるお話しではありませんが、「釧路」が舞台となる本作品も、全世界20カ所国語以上に翻訳されています。また書籍タイトルにもなっている短編「神の子供たちはみな踊る」は、米国で映画化されています。考えさせられる作品がたくさん詰まった短編集ですので、少しでも気になった方はぜひ読んでみてください。



写真は文庫版。図書館でも貸し出しております。

『標茶町郷土館報告』第29号を発行しました。



「標茶町郷土館報告」としては最終号となる、第29号を発行しました。今号は研究報告4本のほか、昨年他界された昆虫博士飯島一雄氏の追悼文集、そして平成28年度の標茶町郷土館の活動をまとめた「年報」を掲載しています。特に飯島一雄氏の追悼文集には、飯島氏と親交のあった17人の方々よりご寄稿いただき、飯島氏の昆虫研究の足跡をたどる事ができる追悼文集となりました。また表紙写真には磯分内の菊地利長氏より、素晴らしい写真をご提供いただいています。A4版67頁となっています。

興味がある方は図書館にて閲覧や貸し出しを行っているほか、希望者には残部のある限り、無料にてお渡ししています。ご希望の方は郷土館までご連絡ください。